



高校総体、お疲れさんでした！1, 2年生は、先輩の想いを引き継ぎましょう。
3年生諸君。文化祭が終わったら、進路に向けてロックオン。でも、時には、後輩のことも気にかけてやってくださいね。

文化祭を前に ～経験と成長～

ある学校の文化祭のでできごと。午前中の演劇の観覧が終わり、生徒が展示場の方へ出て行ったあとの体育館。実行委員が乱れたイスを並べ直しています。ほとんどの生徒はこの苦勞を知りません。ある実行委員はしきりに手で何かをはたいています。近寄って見ると、それは文化祭のパンフレットでした。彼は床に散乱している捨てられたパンフレットを拾っていたのです。



小脇には同じ運命のパンフレットがたくさんはさまれている。この人、A君は実行委員の中でパンフ作成係でした。文化祭の出し物の時間を調整し、各クラスや部活動から原稿をあつめ、締め切りを守らないクラスには、催促していやな顔をされ、原稿を書き、イラストを入れ、それを先生に見せて、アドバイスをもらって書き直し、前日夜遅くまで残って印刷機にかけてやっと間に合った苦心の作。できあがった時のA君のうれしそうな顔。一仕事やったぞ！って感じ。一緒になって喜んだものです。

ところが、大きな苦勞の結果、やっどこぎつけたものが無惨に床に投げつけられ、踏みつけられ、切り刻まれている。A君の怒りと悲しみは、完成するまでの彼の努力を見ているだけに、簡単に想像できる。私はかける言葉も見つかりませんでした。

しかし、A君は文化祭のあとの反省会で次のように発言しました。「捨てられたパンフレットを見て腹がたった。我々の苦勞をだれも解ってくれない。役員なんかするんじゃない。その時、正直そう思った。でも今は違う。広い視野に立てば、捨てた人よりも、それをいとおしんで拾った自分の方が学ぶことが多かったことに気がついた。なぜなら、もし、役員をやっていなかったら私も捨てる立場の人間であったかもしれないからです。役員をやってよかったです。」 A君は、ひとまわり大きな人間になった。さて、君たちはどうか...

先輩方の気持ちに応えましょう。たくさんの参加をお願いします。

北高夢ロード実行委員会企画「ようこそ先輩」

おりがみ飛行機大会

豊北高校が新しい高校に生まれ変わり、さらなる飛翔をする土台を創るために、今、飛行機を飛ばしましょう。

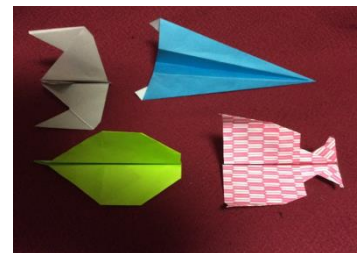
場所：豊北高校 武道場

日時：2017年6月11日(日) 10:30-12:00

講師：岡崎新太郎(昭和39年卒) 北高夢ロード実行委員長

- ・おりがみ飛行機を作ってみよう。(用紙を準備しています。)
- ・おりがみ飛行機を飛ばしてみよう。

(ちょっとした工夫で飛び方が違います。どんな工夫かな。)



3部門で競います。
(滞空型・距離型・デザイン型)
3部門で優秀者表彰

学校が変わる瞬間……私が若い頃、文化祭で女性用の水着を着るはめになった理由

クラスでステージ発表をするところまでは、担任の意を汲んだ文化祭実行委員の奮闘で何とか漕ぎ着けたものの、出し物を何にするかという具体的な話になると、みんな他人事。誰かがやるだろう、自分だけは勘弁してくれと、無関心を装っています。

教室の後ろで事の成り行きを見つめる私に向けられた文化祭実行委員の眼は明らかに助けを求めています。このまま生徒に任せるか、ここまでが限界か、方向付けの一言を出すタイミングというのは難しいものです。こういう時は、思いっきり過激な案を出すというのが私の作戦。「それだけは勘弁」と次は自分達で考え始めるはずです。



「ステージ発表するなら、やってみたいことがあるんよね。ちょうど、セーラームーンとか、テレビでやっちゃるし、女子が作った衣装を男子が着て、テーマソングに載せてコスプレファッションショーっていうのはどう？」直ぐさま、反応したのはN。「そんな恥ずかしいこと誰がやるんか？。そんなことしたら、**文化祭、みんな休むっちゃ**」。その他、反対意見多数。(ちょっと過激すぎたか。このままでは、ステージ発表、いやクラス参加自体がボツになるかも……)

こんな時、以前なら真っ先に反対しそうなMが、黙って、にこにここっちを見えています。「おいM。お前は どうする？」「先生！面白そうじゃん。それやろう！」(えっ、本当にやっちゃうの？)「でも、みんな反対しちよるぞ。」「最後の文化祭じゃろ！やろういね。」彼は、**野球部の元エース。さすが、最後の夏、最後の瞬間を経験した男は言うことが違います**。「やっぱ俺はバニーガールじゃね！先生は何やるん！」(えっ！俺もやるの？)「先生は女性用の水着じゃ。」「まじかよ！俺が女性用の水着着て、ビキニパンツの副担任の体育のK先生にオイル塗ってもらうってか?!」(口が滑ってしまった。もうこうなったら勢いだ。)「俺とお前と二人きりになってもやろう。そして、むちゃくちゃウケて、参加せんかった奴、悔しい思いさせちゃろうぜ。……」啖呵を切ってHRを終えた私は、直ぐさま体育準備室へ。このクラスの難しさを私の側で見続け、支えてきてくれたK先生に事情を話すと、「僕は相撲部で廻ししちよったんじゃけ、ビキニパンツぐらい何でもない。」と二つ返事でOK！(また救われた！)翌朝のSHR、文化祭実行委員が私の所にやってきて、嬉しそうに、照れくさそうに、「昨日の話、みんなでやることに決まりました。あの後、みんなで話し合いました。」



まあ、決まりはしたものの、紙面の都合上、割愛させていただきますが、それから文化祭当日までの3週間、例に漏れずいろんなことがありました。一番心配だったのが、文化祭の前日までの3日間、出張で私が学校にいなかったこと。最後の追い込みを、この子たちだけでどこまでできるのか……。

何はともあれ、当日の幕は上がりました。あれだけ嫌がっていたNがセーラームーンの衣装を着て踊っています。ガン飛ばしあうツツパリの男女、やがて口づけへ……等々。暗転したかと思うと怪しげな音楽と共にステージの正面カーテンからバニーガールのおしりがのぞいています。上手い演出。あのMです。私ですか？私とK先生の出演場面の描写は、二人ともまだ在職中ですので、ここでは勘弁してください。

さて、ショー(?)のエンディングは、モデル(?)総出演によるカーテンコールです。体育館中に割れんばかりの拍手。つと突然、音楽が切れ、ナレーションが始まりました。

「最初、この企画を先生から提案された時、本当に恥ずかしいと思いました。格好悪いと思いました。でも、私達は考えました。**本当の恥ずかしさって、格好悪さって何だろう**って。私達はやっとなり付きました。みんなが一生懸命取り組んでいる時に、冷めて何もしないこと。これほど格好悪くって、恥ずかしいことってないって。だから、今回、私達は、**思いっきり、恥ずかしくって、格好悪いことにチャレンジ**してみました。さて、2年生、1年生の皆さんの眼に私達は どう映りましたか。格好悪かったですか？私達の姿に何かを感じてくれたら、来年の文化祭までその気持ちを大切に温めておいてください。」

それは、私の知らない、彼ら自身の言葉でした。

余程感極まったのでしょうか。突然、校長先生がステージに駆け上がり、女装をした男子生徒一人ひとりを抱きしめていきます。もちろん、私も。水着姿の私も……。そんな校長先生の姿も、とても格好良く、今にして思えば、何かを生徒達に残したように思います。

それから数年後、全校生徒数が200人も満たないその学校の野球部は夢の甲子園に出場しました。